

F-6 アムメイン単位による生活設計

梶山女学園大家政 ○山口 久子
金城学院大家政 今井 光映

1. 生活設計ということばは、欧米諸国では古くから使われている。わが国では、一時期中絶していたが、ごく最近、生活設計に関する議論が盛んになってきたようである。何れにしても、この生活設計は内容的に各種の主体的要因を含み、それ等の要因が序列化し交錯して巧みに描かれていくものである。その中でも特に、長期に亘る家政経済管理はその中核を位置するものといえよう。そこで、われわれは、この長期家政経済上最も必要とされる長期生活費の算定を試みたいと考え、その手段として消費単位の利用を試みた。しかし、この消費単位は、すでに諸外国、及び日本において数多く紹介され、実験されているので、今回は特に、日本において余り用いられていないアムメイン消費単位を採用してその効果を試みる。

2. 1)資料は総理府統計局、家計調査の結果に基づき、実収入の実態と理論額を算出。2)モデル家族数種を仮設し、これにアムメイン消費単位を適用して、各家族の必要額と許与費用額を算出。

3. アムメイン単位表の構成から、一般家政経済は、

家族養育期(子供)に一様に貧乏線に近づく事が判明した。その時期と回数は子供数により異なり、また、理論額、実態額においても多少の差異がみられた。なお、消費単位、生活費がピークに達するのは、何れの場合も(有子家族)結婚後24年～25年目(夫の年齢49～50才)頃である事を示した。